

ルボ 2

## 居心地の良い牧場を追求

本州有数の酪農地域であり、ペンションや別荘地など観光地としても有名な栃木県那須町に位置する大島牧場。後継者である大島新平さんは、農場の臭気を抑えることが、自身にとっても周囲にとっても重要なことだと考えている。農場の臭気対策について話を聞いた。

栃木県那須郡那須町  
**大島牧場**



大島新平さん

牛床の高さは約1m。どれだけしっかり搅拌できるかが重要



ブラシも牛体清潔に貢献している



牛床の一部を嗅いでみると、匂いはなく、べたつきもない

### 全国青年農業者会議 2020 で発表

大島新平さん（32歳）は、全国農業青年クラブ連絡協議会（4Hクラブ）が昨年開催した、さまざまな農業分野での事例発表大会「全国青年農業者会議2020」で農場の臭気対策について意見発表を行い、畜産部門で入賞した。その取り組みとは、バーミキュライト由来の微生物資材を用いた牛舎環境改善という内容だった。

かつて新平さんは、牛舎に雨や雪が吹き込むことで牛床がぬかるみ、牛が横臥しづらい状態になったり、牛床からの匂いが気になったり、堆肥化までに時間が



コンポストバーン改善で自然と牛体も綺麗になっていった

### 概要

- 経産牛49頭、育成牛19頭
- コンポストバーン、アブレストバーラー（4頭）
- 自給飼料13ha（イタリアン、ライムギ）、TMR購入
- 日乳量平均33kg、F3.75%、P3.2%、SNF8.85%
- 従事者：父・英次さん、母・富士子さん、本人

かかってしまうなどという問題を抱えていた。それらの対策として牛床に微生物資材を散布。戻し堆肥の牛床に資材とおが粉を散布し、ロータリーで搅拌という工程で管理を続けた。

しばらく続けた結果、敷料の水分量が減り、臭気も改善された。実際に農場の複数箇所で臭気の数値測定をしたところ、那須町の基準値である臭気指数15を農場内ほとんどの箇所で下回った。新平さんは「牛床管理を改善して驚くほど匂わなくなった」と自身の感触を話す。「敷料の水分量も適切になり、手をかけなくても牛体も綺麗に保てるようになった」とも。

すると、かすかな匂いの変化や牛の様子がわかりやすくなり、そこから体調不良の早期発見につながり、飼養管理の質が向上した。

さらに微生物資材のおかげで、コンポストバーンに棲む菌が大きく変化した。発酵が促進され、大腸菌が減少。代わりに資材に含まれる放線菌などが繁殖し、良い菌で牛床が満たされるようになった。

今まで大腸菌由来の乳房炎にも悩まされてきた大島牧場だったが、乳房炎も減少し抗生物質の使用量も減ったという。

### しっかり搅拌が重要

大島牧場のコンポストバーン管理は、まず毎日の作業としておが粉を散布し、1日2回朝晩ロータリーをかける。3~5日おきに、微生物資材を散布するという流れ。戻し堆肥は水分量を見て適宜追加する。

一見特別なことはしていない作業のように思える



おが粉は水分量を見て散布。  
基本的に1日1回